



◇第10回生物工学産学技術研究会 報告◇

産学連携委員会

日本生物工学会産学連携委員会は、新たな交流の場を提供し、双方向コミュニケーションによる産学の連携強化、人材育成、双方のニーズ把握などを図るべく、産学連携活動を推進しており、その取組みの一環として、産業界ならではの「ものづくり」の実用化技術、商品化技術を紹介する生物工学産学技術研究会を企画・運営しております。

第10回目となる生物工学産学技術研究会は、11月24（金）に宮崎県都城市にある霧島酒造株式会社・霧島ファクトリーガーデンにて開催いたしました。研究会開催に先立ち、霧島酒造株式会社志比田増設工場の見学会も開催いたしました。

研究会の冒頭、木野邦器会長より本学会の産学連携の意義を含めご挨拶いただき、引き続き2名の南九州を代表する産業界の講師の方から各40分間ご講演をいただきました。質疑の時間として10分を予定しておりましたが、会場との間で予定時間を超える活発な質疑応答がありました。

その後、基調講演として「西郷どん」時代考証で知られる鹿児島県立図書館長の原口泉様より、“のんかた”からいかに明治維新が進められたのかについて、臨場感ある語り口でお話いただき、最後に川面克行副会長より、一連の講演に基づく学生へのメッセージを含めたご挨拶をいただきました。

今回は、初の南九州での開催ではございましたが、関東・関西からも多くの産官界の研究者の方々と九州全土から学生の方がそれぞれ約40名、合計81名の方々にご参加いただき、盛況に産学技術交流が行われました。



原口 泉様

◆「モンゴル由来乳酸菌の可能性について」

(南日本酪農協同(株)商品開発部 次長) 竹下 正彦

乳酸菌、腸内フローラ、プロバイオティクス、プレバイオティクスなどの定義と健康への重要性について分かりやすく解説いただいた後、都城市がモンゴルとの友好都市である背景から、モンゴル全域の伝統的乳製品から分離した多くの乳酸菌について健康機能と疾患との関係性に関する研究開発成果について、ご講演をいただきました。具体的には、演者らの分離したLP432株 (*L. plantarum*) は免疫賦活活性、ウイルス・ピロリ菌感染抑制、潰瘍性大腸炎予防などのプロバイオティクス効果やその機能メカニズム仮説についてご紹介いただきました。



◆「地域に根ざした焼酎製造～その開発～」

(霧島酒造(株)研究開発部 醸造原料研究係主任) 藤田 剛嗣

資源有効利用の取組みによる「環境共生型工場」の実現に対する第23回地球環境農林水産大臣賞の受賞に加え、顧客価値の向上と地域密着経営を両立する持続発展性ある焼酎製造の取組みについてご講演をいただきました。具体的には、地域(生産者～製造者～顧客)経済活性化につながる焼酎用米やサツマイモ新品種の産官学連携での育種・栽培技術開発の取組みから焼酎をベースとする料飲店と共同での食文化発信への取組みまで、幅広く霧島酒造株式会社のモノづくりの考えと実践についてご紹介いただきました。



講演会終了後に開催された懇親会には、産業界、公的機関、学生を含め約50名の方々に参加いただきました。活気溢れる学生の方からは、企業の方と打ち解けた中で色んな話ができとても有意義、参加してとてもよかった、とのありがたい意見をいただきました。

最後になりますが、第10回生物工学産学技術研究会の開催に際しては、開催案内や講演会・懇親会の会場設営・準備など、霧島酒造株式会社、九州支部の皆様にご大変お世話になりましたことをここに報告させていただきます。